

## 続・夕霧の墓

### 望月苑巳

夕霧のまぼろしふりしきって  
擬宝珠がてらり  
橋は渡す  
息は渡す

お兄さまはいつ帰られましたの？  
ほれ  
朝もすつかり暮れて  
手向けの花  
すでに萎れましたわ  
それだけではるは  
つめたくあさい  
目覚めを  
求めていましたのよ

手水はぬらし  
墓にぬらし  
愛でて  
さくら散らす

兄さまは涙に枯らすのですか  
六条の辻から  
読経が跳ねて  
かりがねのつばさに雪の名残が  
ほれ  
兄さまこの道は  
戻れない

夕霧の怨み

二度とできない影踏み

愛し

源氏物語のページ

夕霧をまたかすみ

つつみ隠すのですね